める、それをおのらもあるに、一の上にては、そこにこそ物し給へ、○略下

〔物類稱呼言語五〕自をさしていふ詞に、○略中おれと云、おらといふは己（おのれ）の轉語にて、諸國の通稱か、東國にてはおいらとも云、中國にてうらと云、寄田百姓言葉　飛鳥井雅章卿

田をかるにあつうも寒うもあらなくにうらゝがいねは色になる稻

〔書言字考節用集人倫四〕自（ミヅカラ）字彙、己也、同親

〔倭訓栞前編三十〕みづから　自をよめり、身づから也、自身にや、自與、自使、自令など連用するは史に見ゆ、又躬又親をよむも同じ、又身自とも連用す、

〔古今和歌集序〕延喜五年四月十八日に、大内記きのとものり、○略中右衛門の府生みふのたゞみねらにおほせられて、万えふしふにいらぬふるきうた、みづからのをもたてまつらしめ給ひてなん、○略下

〔物類稱呼言語五〕自をさしていふ詞に、豐前豐後にてわがとうと云、又身が等といふもおなじ、又身ども、身とばかりもいふ、正徹物語に、身が家は二條東洞院に有し也と云々、

〔類聚名義抄禾七〕私俗ム字　ワタクシ　息脂反

〔伊呂波字類抄和人事〕私ワタクシ

〔書言字考節用集人倫四〕私（ワタクシ）儀禮家臣稱レ私、韵會、自營、爲レ私、又與レ某同、

〔藻鹽草十人倫五〕我

わけ　異說に云、をのれと云心と云々、又男を云ともいへり、たゞわれと云儀也、

〔萬葉集相聞四〕大伴宿禰三依歌一首

吾君者（ワガキミハ）、和氣乎波（ワケヲバ）、死常念（シヌトオモヘカ）、可毛（モアフヨ）、相宿不相夜（アハヌヨフタユクナラム）、二走良武、

〔萬葉集八春相聞〕大伴家持贈和歌二首